

インディアナ大学、データ仮想化により全学で戦略的意思決定を改善



INDIANA UNIVERSITY

www.iu.edu

産業分野
教育

プロフィール

インディアナ大学(IU)は、インディアナ州内に広がる8つのキャンパスからなる、学生数11.4万人以上、職員数2.1万人以上の大学です。2022年にはForbes誌の全米公立大学ランキングで38位に選ばれ、Carnegie Classification™(カーネギー分類)では「R1: Doctoral University - Highest Research Activity」(R1: 博士号授与大学 - 研究活動が最も活発)に認定され、年間予算は40億ドルとなっています。

「Denodo Platformは、最低でも3つの統合ツールが1つになったのですが、それ以上のものですよ。このプラットフォームを使ってデータにアクセスする新しく独創的な方法を日々発見しています」

Daniel Young氏

チーフデータアーキテクト
インディアナ大学

インディアナ大学(IU)には、多くの研究機関と同様に、メインフレームの時代にまで遡る、ビジネスレポーティングとビジネスインテリジェンスにおける長い歴史があります。最近では、意思決定サポートイニシアチブ(DSI)という新しい多年度プロジェクトを立ち上げ、データやモデル、プロセスの強化によりIUの意思決定を改善しようとしています。DSIの狙いは、データテクノロジーや分析テクノロジーへのアクセスを改善して、IUシステム全体で透明性を高め、十分な情報を得た上で意思決定ができるようにすることです。

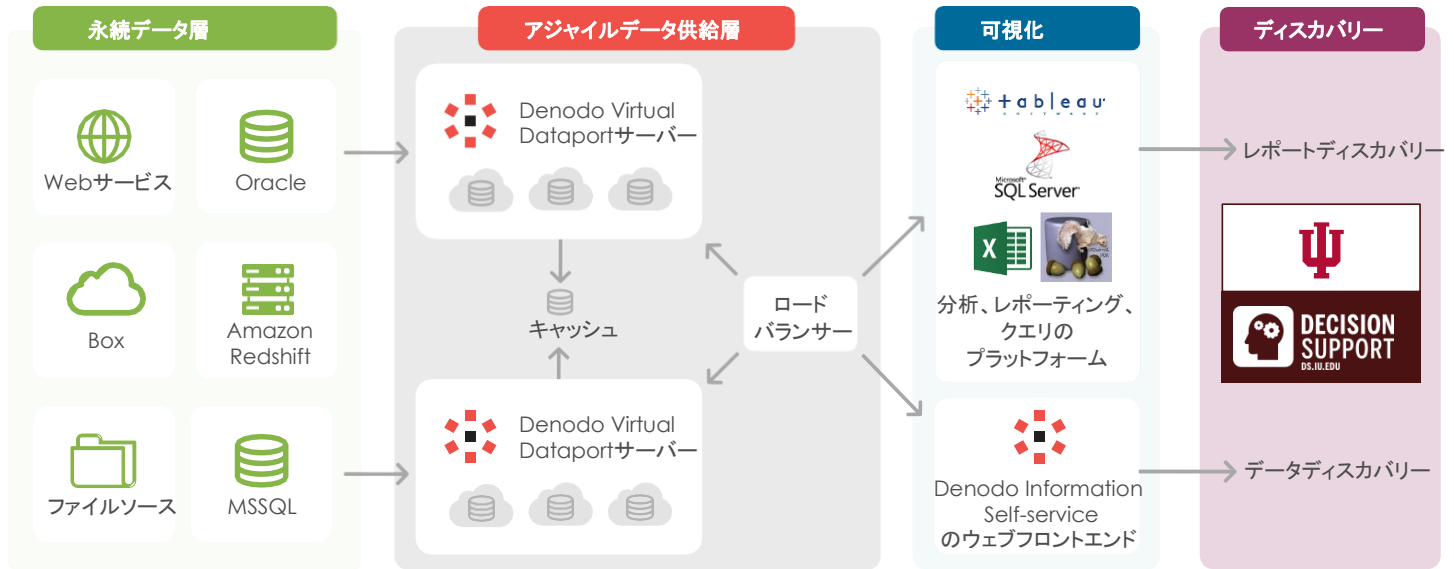
課題

意思決定者を支援して、IU内のあらゆるレベルで意思決定を強化するために、的確で正確な情報をタイムリーに入手できる能力を飛躍的に高める必要がありました。これまでは、データとそれに対応するビジネスロジックが、サイロ化された複数のシステムに保存されていたため、意思決定者が必要とする関連性のある情報を収集して組み合わせるために、非常に多くの時間がかかっていました。場合によっては、必要なデータエレメントを発見できなかったり、記録の情報源の共通定義が保持されていなかったりして、データアクティビティが完全な失敗に終わることもありました。さらに、同大学のデータ統合ツールセットが主にETL処理を中心に構築されていたため、供給、維持、管理に幅広いスキルセットと希少なリソースを必要としました。その結果、情報アクセスに必要な開発時間は非常に長くなり、データが得られた頃には、意思決定の役に立たず、的外れになっていることもありました。

このタイムリーなデータと開発という課題に加えて、大学の従来型レポーティング手法ではセキュリティとプライバシーがリスクにさらされるという課題もありました。これは、行レベルのアクセス制御が組み込まれていたのが、エンタープライズデータウェアハウス(EDW)内のみだったためです。他のデータソースやEDW外に枝分かれしたレポーティング環境(シャドウシステム)は、このようなきめ細かなアクセス制御の対象ではなく、侵害される可能性が高まっていました。

解決策

DSIチームのメンバーは、このような以前からの課題に対応しつつ、将来にも備えるために、情報を簡単に利用して同大学のデータニーズを満たすことができる単一のシステムを構築することに注力しました。IUは、データ仮想化を活用しようと、Denodo Platformを選択して論理データウェアハウス(LDW)を構築しました。このアーキテクチャーでは、Denodoが同大学の記録システムをデータ利用アプリケーションに接続し、異種データの接続性、供給、セキュリティ、ガバナンスのサービスを提供します。IUは、Denodoの協力を得て、Oracle、MS-SQL、Amazon Redshift、ウェブサービス、Box.comなどのデータソースをうまく組み合わせ、TableauやExcelなどのデータ利用アプリケーションに安全に情報を供給しています。おそらく最も重要なのは、Denodo Platformにより同大学のセキュリティとコンプライアンスの態勢が大幅に改善され、さまざまなデータソースに対するきめ細かなアクセス制御と監査が可能になったことでしょう。Denodoにより、ユーザー管理はアクティブディレクトリグループとSAML統合を使用することで簡素化され、適切なタイミングで適切なユーザーに適切なアクセス権が与えられるようになりました。



利点

論理データウェアハウスにより、インディアナ大学の意思決定者は、必要なとき必要なデータに即座にアクセスできるようになりました。Denodo Platformは、同大学の以前の従来型データウェアハウスと比較して、セキュリティを向上させ、アジリティを高めながら、必要な技術リソースを減らし、成果の向上に必要な情報をシームレスに供給しています。実際、同大学によるDenodo Platformの活用はLDWIにとどまらず、DenodoのJava拡張機能を新しい創造的な方法で使用してデータブレンディングやデータアクセスのニーズを満たしています。まだ初期段階ではありますが、セルフサービスのビジネスインテリジェンスを含めた、UIにおける情報アクセスと情報管理のためのエンタープライズプラットフォームとして、Denodo Platformは有望な選択肢となっています。

Denodo Platformの効果:

- 大学全体で情報アジリティを大幅に向上させました。データがどこにあっても、最小限の労力で、ほぼ瞬時に定義して、アクセスできるようになりました。
- エンタープライズ全体に広がる多様なデータに、適切な権限構造で安全にアクセスできるようになりました。データがアクセスされるタイミングやデータの保存場所に関係なく、ルールを適用できます。
- コアビジネスインテリジェンスのロジックが一元化されつつあるため、作業の重複が減り、開発効率が向上しています。
- 同大学に検索可能なデータ辞書が設置され、レポート作成者が必要なデータを見つけやすくなり、Denodo Information Self-Service ツールを使用する際のセルフサービスエクスペリエンスが向上しています。

Denodoについて

Denodoはデータ管理のリーダーです。受賞歴のあるDenodo Platformは、セルフサービス型BI、データサイエンス、ハイブリッド/マルチクラウド・データ統合、およびエンタープライズデータサービスを可能にする論理的アプローチを使用した、業界をリードするデータ統合、管理、および配信プラットフォームです。400%以上のROIと数百万ドルの利益を実現し、30を超える業界の大企業やミドルマーケット企業のDenodoの顧客は、6か月足らずでの投資回収を実現しています。

Webサイト: www.denodo.com/ja | メール: info@denodo.com | コミュニティ: community.denodo.com

